特別支援教育の扉 №１２４　　令和６年11月15日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「信頼・尊敬される先生の特徴ベスト5

参照：特別支援教育に学ぶ「発達が気になる子の教え方」ＢＥＳＴ　著者：　渡辺道治

第１位　褒め上手

よい学級をつくれる先生は例外なく褒め上手である。子どものがんばりに対して、「それくらいできて当たり前だよ」、「大体それくらいできるよね」というような冷たい視線ではなくて、「わ！ここまでできたか！」と喜べたり、「え！ここまでできたの！」という形で驚いたりすること。子どもの変化や成長を見て、素直に喜べたり驚けたりする人は、信頼や尊敬を集めやすい。　**子どものよいところを見続ける目と心を忘れない。当たり前は最大の敵！**

第２位　話が短い（端的ですっきりしている）

発達障害のある子どもが成人した後に、「どんな大人が苦手ですか？」という質問に対して、話の長い人、たくさんのことを一気に伝える人、長い説教をする人といった回答があった。反対に、「どんな大人が信頼できますか？」という質問には、短く分かりやすく伝えてくれる人、短く叱ってくれる人といった答えが返ってきた。発達の凸凹の大きい子どもは、一時的に言語情報を記憶し、操作するワーキングメモリが少ない。よって、話の短さは、子どもへの一つのプレゼントになる。　**話は短く、ユーモアも交えて！**

第３位　叱るときに叱ってくれる人

ある中学校で「信頼できる先生ってどんな先生？」と聞いたときのアンケート結果によると、「叱るときに叱ってくれる人」が第２位で、反対に苦手な先生のランキング１位は「すぐ怒る人」だった。「叱る」と「怒る」は紙一重である。　**叱らない先生になるのではなく、叱っても大丈夫な信頼関係を築く！**

第４位　日ごろから子どもたちと言葉のキャッチボールをよくしている人

授業中だけでなく、それ以外の時間ですれ違ったときにも先生自ら子どもに話し掛け、あるいは子どもの話をよく聞いているといった「ラリーをたくさんしている」ということ。叱るとか褒めるというのは、何か変化が起きたときにする関わりのこと。何の気なしの言葉のラリーは、無変化状態での関わりであり、家族の会話と似ている。何気ない会話ができるのは、「あなたを大切に思っている」という隠れたメッセージを伝えていることになる。　**会話はドッジボールではなくキャッチボール。子どもが取りやすいところに投げてますか？**

第５位　笑顔があふれていて、明るい人

突き抜けるように明るかったり、どこまでも励まし続けてくれたり、温かく応援してくれたり、そういう明るい先生のことを子どもは好きになる。　**最も早く信頼関係を築く方法は、笑顔を見せること！**

とれたて直送便

「あなたが印象に残っている先生は？」

研修会で、「印象に残っている先生は、どんな先生でしたか？」と質問すると、話を真剣に聴いてくれた、小さな変容を褒めてくれた、落ち込んでいるときに励ましてくれた、とにかく授業が面白かったなどの回答が多いです。さて、「あなたが印象に残っている先生は？」